

お取引先さま各位

## カカオ・チョコレート週刊ニュース 84号

2014/02/24 発行  
株式会社 立花商店  
生田 渉

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本前後ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

### 1、市況の動き：高値圏を維持。先週比でロンドン市場は下落、NY市場は上昇

① 最高：5月LDN市場£1,859 /3月NY市場\$2,976 (2/20) 先週比 **LDN -£8/NY +\$5**

② 最低：5月LDN市場£1,835 /3月NY市場\$2,934 (2/19) 先週比 **LDN-£19/NY+\$6**

週内価格差額 (①-②)：LDN市場£24 (傾向→) / NY市場\$42 (傾向→)

週内建玉推移：LDN市場 285,511枚(2/14終了時)⇒301,222枚(2/20終了時) **+15,711枚**

NY市場 212,516枚(2/14終了時) ⇒214,121枚(2/20終了時) **+1,605枚**

【2月17日(月)】ロンドン、小反発=ニューヨークは休場

ニューヨーク市場は、プレジデントデーに伴う祝日のため休場。

ロンドン市場の5月きりは3ポンド(0.2%)高の1858ポンドで引けた。12日には、2番ぎりとしては2011年9月以来の高値となる1871ポンドを付けた。

サクデン・フィナンシャル・リサーチのアナリスト、カシュ・カマル氏は「10日移動平均を割り込むようであれば、最近付けた(2番ぎりとしての)安値1824ポンドに向かって下落する可能性がある」と指摘した。

輸出業者が17日に明らかにした推計によると、今シーズン(昨年10月2日スタート)に入ってから2月16日までのコートジボワール主要港の着荷量は約108万トンに達し、前年同期の92万9000トンを上回った。

【2月18日(火)】両市場、小幅下落=高値圏は維持

両市場とも小幅下落。ただ、コートジボワールの着荷状況をにらみつつ、相場は引き続き2年半ぶり高値水準を維持している。

ニューヨーク市場の5月きりは8ドル(0.3%)安の2959ドルで終了。一時2年半ぶり高値となる2985ドルを付けた。ロンドン市場の5月きりは6ポンド(0.3%)安の1852ポンドで取引を終えた。

【2月19日(水)】両市場とも続落=高値圏は維持

両市場とも続落。ニューヨーク市場の5月きりは前日に2年半ぶりの高値を付けたが、25ドル(0.8%)安の**2934ドル**で引けた。ただ、高値圏は保っている。ロンドン市場の5月きりは17ポンド(0.9%)

安の **1835ポンド** で取引を終えた。

【2月20日（木）】 ニューヨーク、ロンドンとも反発

ココア先物は、強い需要に押し上げられ、反発。ニューヨーク市場の5月きりは、42ドル（1.4%）高の **2976ドル** で終了。一時は2997ドルと、2年半ぶりの高値まで上伸した。

エコバンクは、レポートで「2013～14年度は西アフリカの豊作が見込まれるにもかかわらず、アジアをはじめとする新興市場の強い需要に支援され、ココア相場は14年を通して堅調に推移するとみられる」と指摘した。ロンドン市場の5月きりは、24ポンド（1.3%）高の **1859ポンド** で引けた。

【2月21日（金）】 ニューヨーク、ロンドンとも反落

ココア先物は反落した。ニューヨーク市場の5月きりは26ドル（0.9%）安の2950ドルで終了した。一時、2年半ぶり高値となる3002ドルまで上げたが、その後、利食い売りに押された。ロンドン市場の5月きりは11ポンド（0.6%）安の1848ポンドで引けた。

## **2、カメルーン：カカオ豆輸出量 1月までに13万3,587トンに到達(2/22)**

カメルーンは1月だけで2万7,720トンのカカオ豆を輸出した。昨年1月の輸出量3万4,720トンと比較すると減少しているものの、12月の2万5,848トンからは増加。今シーズンから合計で13万3,587トンとなった。

（上記数量は the National Cocoa and Coffee Board 発表=NCCB）

カメルーンは世界第4位のカカオ豆の生産国であるが、カメルーンの今期のカカオ豆の輸出量は昨年の16万600トンから17%の減少となった。NCCBはこの輸出量の低下をカメルーンに起きている悪天候によるものとしている。

カメルーンにはカカオ豆の輸出業者が21社ある。このうち、最大の出荷量を誇る Telcar ココア社（カーギルとの合弁企業）は1月に6,320トンのカカオ豆を輸出しているが、12月の8,478トンからは下落となった。これに続くのは Ets Ndong Essomba 社（5,165トン）、Produits Cam 社（3,411トン）、Olam Cam 社（3,168トン）を輸出した。カメルーンのカカオシーズンは毎年8月から7月を1シーズンとしており、メインクロップの収穫は10月～1、2月まで続き、ライトクロップは4、5月～7月となる。

カメルーンのカカオ生産高は2010/11期で24万トンを記録したが、長引く乾季とカカオにつく害虫や病気が原因となり2011/12期には22万トンへと下落。しかし2012/13期には再び増加し22万8,948トンへ、2013/14期にはおよそ23万5,000へと伸びるとNCCBは予測している。

貿易省はカカオ生産者と輸出者に対し、カカオ豆をチョコレートなどの最終製品やカカオマス・カカオバターなどの半製品に加工し、雇用創出と外貨獲得の手段とすることを促している。この背景には中国やインド、他のアジアの国々、ロシアでの需要増加がある。

NCCBは、カメルーン国内の圧砕業者2社のカカオ豆の仕入高が1月までで2万9,938トンとなることを見込んでいる。（昨年同時期：2万6,639トン）

カメルーンを代表する圧砕業者である Sic-Cacaos は1月に1,983トンのカカオ豆を仕入れたが、この数字は12月の2,283トン、昨年同時期の6,333トンと比較すると下落となった。

しかし Sic-Cacaos の今期の仕入の合計は2万9,143トンとなっていて、昨年の2万5,036トンからは伸びている。次いで第2の圧砕業者の Chocolaterie Confiserie du Cameroun は1月に101トンを仕入れており、12

月の3トンから上昇。同社の今期の仕入の合計は795トンとなったが、昨年の1,603トンからは減少している。

### 3、キャドバリー、インド市場での売上拡大をめざし重点的に投資(2/21)

キャドバリーチョコレートを取り扱うモンデリーズ・インターナショナル（米国）は、インドでの売上拡大と販路拡大を目指し、重点的に投資を開始している。インドを重要な市場とみている背景には、2005年から続く不況により米国内で食品の売上が落ち込んでいることがある。

モンデリーズの情報によると、インドでのビジネスは2011年には30%上昇したが、その後は2012年に21%、2013年は10~14%へと下落した。インドは世界の中でもチョコレート市場の成長スピードが最も早い国の一つであるが、景気不振により消費が落ち込んでいる。ただ、2013年は世界的に食料部門全体の成長率が昨年の17%から11.6%へと下落していた背景がある。

モンデリーズの財務最高責任者のDavid Brearton氏は「経済状況は依然として厳しいが、特に新興国の市場では市場シェアを倍増させ、経済の不安定さに対応したいと考えている。」という。

景気の先行き不安にも関わらず、モンデリーズは昨年、1億9,000万ドルの投資を行いインド南東部にあるハイデラバード近くに同国内で最大規模のチョコレート製造工場を作ることを発表した。

キャドバリー・インドのスポークスマンは「我々のすでに得てきた利益やこれまでの軌跡、力強い基盤、そしてまさに今行っている投資によって、インドマーケットで良い機会を得ている。」という。

インド国内のチョコレート部門において、キャドバリーは67%を占めており、ネスレ21%、Ferrero6%と続く。しかしながら、キャドバリーにとっても、マーケットシェアを伸ばしていくことは容易ではない。キャドバリーは高級志向のチョコレートはSilkブランドを作り、一方で低価格志向の商品としてCadbury Shotという商品を作ることで打開していこうとしている。

ライバルであるネスレもまた、新しいブランドとしてAlpinoとMunchという商品に注力している。



\* インドで展開されているキャドバリー・SILKの広告の一例



\*一方、低価格帯の **SHOT** ブランド



ネスレの高級路線ブランドの **ALPINO**



ネスレの低価格路線のブランドの **Munch**

#### 4、ガーナ：2013/14 期のメインクロップの収穫目標を上方修正(2/20)

ガーナのカカオ豆監督機関のココア委員会(Cocobod)によると、ガーナは 2013/14 期のカカオ収穫高は予測よりも多くなるということだ。メインクロップの収穫高は 85 万トンと見込まれており、昨年の 83 万トンと比較すると伸びている。Cocobod の集荷・輸送部門を担当している Poku 氏は「我々は 10 月～5 月のメインクロップの収穫目標を 85 万トンに引き上げる。」と述べている。

ガーナはコートジボワールに次ぎ、世界第 2 のカカオ生産国である。2014/15 期に収穫されるカカオ豆の買い付けの為に、シンジケートローンの額を 18 億ドルに引き上げた。

#### 5、インドネシア：カカオ豆輸入の流れ変わらず(2/20)

インドネシア（世界第 3 位のカカオ生産国）は、自国のカカオ生産が低迷しておりカカオの輸入を抑制できずにいる。インドネシア・ココア生産協会の執行役員は「国内のカカオ農園の 30%、約 70 万ヘクタールは管理が行き届いているが、その他の農園は管理されていない状況だ。カカオ農園の生産性は年平均で 0.4%落ちている。インドネシア政府は 2007 年に再生プログラム、2009 年に全国的な改善プログラムを打ち出して、自国内でのカカオ生産量を増やす試みをしてきた」という。

また、「これまで全国的な改善プログラムを行ったが、インドネシアでのカカオの生産可能地域の 30%程度し

かカカオを生産できなかった。現在は、我々は国内に増加したカカオ加工工場を稼働させるために、カカオを輸入してでも手に入れる必要がある。それゆえこの国民活動プログラムを続けて、需要にこたえられるようにしていく。また別の懸念としては、多くのカカオ農園がパームオイルの農園に代わっていつているということだ。その主な地域は Sulawesi の中部や西部だ」という。

農業・水産物輸出省の専門家は「インドネシア国内のカカオのストック量を増やすために輸出税を課し、また海外からの直接投資を呼び込みカカオ農園をインドネシアに作っていくように力をいれる。」という。2013年にインドネシアは45万トンのカカオ豆を生産し、3万5,000トンを輸入した。

## **6、バリーカレボー社、アフリカ企業をはじめ企業買収により拡大を図る(2/20)**

Barry Callebaut (バリーカレボー) はアフリカの“認証カカオ豆”を扱う Biolands Group の残りの51%の株を取得した。これによりカカオ豆を長期に渡って安定的に供給でき、伸びている需要にも対応できるようになる。世界最大の業務用チョコレートの製造メーカーであるバリーカレボーはこれにより個人農家とより密接につながれるようになった。

Biolands 社を傘下に入れ、バリーカレボーは認証カカオ豆の供給元と143人のフルタイム従業員と工場を手に入れた。同社はタンザニア、シエラレオネ、コートジボワールで集荷・輸出事業を行っている。バリーカレボーは2008年に初めてこの Biolands に投資をし、2000年以降、同社から認証カカオ豆の購入をしてきた。バリーカレボー社の2000年以降のこの動向は他のチョコレートメーカーにも影響を与え、商社に頼らずに自分たちで原料を調達しようという動きへと変わっていった。こうして産地を追跡できるカカオ豆、持続可能なカカオ豆を求めての競争は以前より激しくなっている。

さらに2012年12月バリーカレボーはアジアに市場をもつペトラフーズのカカオ部門も買収した。2013年には更に同社はスウェーデンの ASM Foods AB を買収し、更にインドネシア、トルコ、メキシコでチョコレート製造工場を設立した。

## **7、ロッテ チョコレート—インドで2つ目の工場設立—(2/19)**

韓国で最大のチョコレート製造メーカーであるロッテは、来年7月までにインドに第2の工場を設立するという。ロッテはインドの Haryana 北部に工場を作る為に6,180万ドルを費やすと見込まれており、それは年間で3,556万ドルの『チョコパイ』を生産するだけの容量がある。チョコパイはロッテの看板商品である。ちなみにロッテのインド工場の一つ目は、南部の海沿いにある Chennai にある。

ロッテ社は2004年にインドの菓子製造企業の Parrys Confectionery 社の80%株式を取得し同国の事業に参入。その後、社名をロッテ・インドへ変更した。ロッテ・インド社の昨年の売上は9,360万ドルであった。

2013年は韓国の景気の低迷により、売上が減少したことより、ロッテは海外でのビジネスに目を向け始めた。そして昨年12月にはパキスタンのチョコレートメーカー Kolson 社の持ち分を2010年の取得した69.45%から更に残りの全株式にあたる30.55%を取得し完全子会社化した。昨年7月には中央アジアの各国へと事業拡大を図り始めた。また中国においても4つの子会社を持っている。(Lotte China Foods Co., Lotte Qingdao Foods Co., Lotte Ice Co., Lotte China Investment Co.)

## **8、コートジ：カカオ豆の港への着荷量、108万トンへ到達する見込み(2/17)**

コートジの港へのカカオ豆の着荷量は10月から2月まででおよそ108万トンへ到達する。昨年の同期間では92万9,000トンであった。輸出業者はおよそ1万4,000トンのカカオ豆が西アフリカのアビジャン港、サンペドロ港へ出荷されると見ているが、昨年の同時期の出荷量は2万1,000トンであり下落となった。

## **9、コートジ、一部カカオ豆主産地で生産減の懸念＝高温と乾燥で一農家(2/18)**

コートジボワールの農家がロイター通信に明らかにしたところによると、カカオ豆主産地で同国の沿岸部に位置するダロアとサンペドロでは先週も乾燥と高温が続き、農家の間でミッドクロップ期（4～9月）の生産減少への懸念が高まっている。同国はカカオ豆生産で世界トップ。ただ、その他のカカオ豆産地の生育状態は良いという。同国は11月中旬～翌3月までが乾期。

農家は、ミッドクロップ期当初数カ月間のカカオ豆の良好な生育と品質低下防止には、1月～2月後半にかけて、まとまった降雨が週に一度必要だと述べている。ダロア郊外の農家は「多くの（カカオの）花は黄ばんで木から落ちた。湿気がなく、非常に暑いからだ」とした上で、「この地域ではミッドクロップ期開始が遅れるだけでなく、カカオ豆生産量が昨シーズンを下回るだろう」と述べた。

\*特別の注釈がない記事は全て、基本的にロイター通信社のニュースソースを基に作成したものです。

《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田

TEL03-5785-3545      w-ikuta@tachibana-grp.co.jp